

「民俗芸能の保存の現状と問題点」
東京国立文化財研究所芸能部長
三隅 治雄

○分科会事例発表者

「文化財調査の目的と方法」

船引町教育委員会文化振興係長
大河内 透

「市町村における発掘調査の実態」
飯館村教育委員会社会教育主事
多田 宏

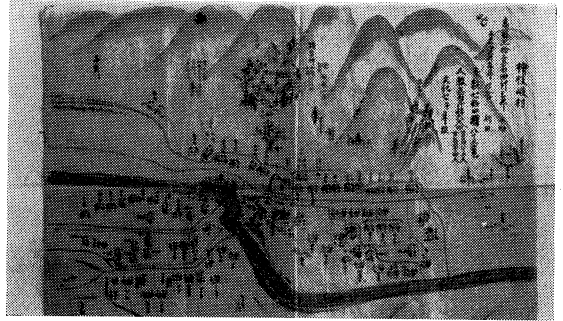
○現地研修 安積高校・デユ屋敷など

五 古文書調査

昭和五十五年度から三か年連続で、
古文書緊急調査「陸奥代官領村方文書
調査」を県文化センターに委託し実施
している。

昭和五十五年度は田島代官所支配下
の只見町長谷部大作文書（八十里越口
留番所文書）をはじめ南郷村馬場新家
文書、埴代官所支配下の埴町鈴木正文
家文書、鮫川村水野ユキ家文書、小名
浜代官所支配下の松本清一家文書、楢
葉町町史編纂室寄託収集文書等を調査
し、このうち長谷部家文書については
史料整理も完了した。

本年度は前年度の継続として、田島
代官所支配下の檜枝岐村口留番所文書
を重点的に調査整理するとともに、桑
折代官所支配下の桑折町松原寺文書、
埴代官所支配下の鮫川村中川西金三助
家文書、小名浜代官所支配下の楢葉町
及び広野町所在の文書の調査を進めて
いる。



楢 枝 岐 村 文 書

「楢枝岐村の絵図」

この村絵図には村内にある家屋やそ
こに住んだ農民の名が書かれており当
時の村の姿がよくわかる。
絵図の右上には次のように書かれて
いる。

高百三拾老石四斗三升
老石四斗九升四合
家数 七拾四軒八十三カマド
人数 三百拾八人内 男 百八十二人
女 百四十四人
文化七年年改
(文化七年一一八一〇年)

一方、これまで調査した文書のう
ち、長谷部大作家文書二七二八点、馬
場新家文書五五九点、楢枝岐村文書約
一六四一点、合計約四九二八点を収録
した「古文書緊急調査報告書第一集」
を本年度中に発行する予定である。

なお、県文化センター歴史資料館で
は七月一日から九月三十日まで本調査
の成果である「南山御蔵入領叶津、楢
枝岐両口留番所関係古文書展」を開催
した。

この古文書展には一般観覧者をはじ
め、交通史、経済史の研究者、また新
潟県史編纂室、小出町史編纂室など遠
く県外からの見学者もあり、好評のう
ちに終了した。

六 年中行事調査

近年の産業経済の発展や社会構造の
変化によって、伝統的な生活様式や風
俗慣習は、著しく変容している。
そのため、それを基盤として成立し
てきた年中行事も変化し、あるものは
衰微にひんし、失われたものも少なく
ない。

このような状況にかんがみ、この調
査は県内全域にわたって年中行事のす
べてをひろいあげ、保護対策の基礎資
料とするものである。

昭和五十五年度には、その一次調査
として、市町村教育委員会の協力で所
在確認調査を実施し、一四四二の資料
を得た。本年はその中から特に価値の
高いと思われるもの十か所前後を選ん

で詳細な現地調査を実施している。
この報告書は来年度刊行の予定であ
る。

七 工芸品調査

県内に所在する工芸品のうち、漆工
品、木工品、竹工品について昨年度か
ら、三か年連続で基礎調査を行って
いる。

昨年度は、県内各市町村教育委員会
の協力を得て各管内の工芸品について
一次調査を実施したが昭和五十六年三
月三十一日現在の一次調査の結果は表
14のとおりである。

本年度はこの一次調査の中から価値
の高い作品を選び、二次調査（現地調
査）を次の調査員に依頼して調査を行
っている。この結果については来年度
中に報告書を刊行する予定である。

○県文化財保護審議会委員

高瀬喜左衛門 梅宮 茂
菊池 貴晴
○会津若松市文化財調査委員
山内 清司

八 第三十一回福島県民俗芸能大 会

県内に継承されている民俗芸能を公
開し、民俗芸能に対する一般の認識を
深めるとともに、その正しい継承と保
存を図るため、毎年県内各地をもちま
わりで開催しているが、本年は九月十
三日石川郡平田村で行われた。特に、
初めての試みとして、永田小学校の校